



みなさん、京都大学に博物館があることをご存知ですか？ 中央キャンパスの西側、ルネの向かい側に立派な博物館があります。今回はその京都大学総合博物館の見所を紹介していきます。ぜひ京大博物館に行きましょう！（ごっつ）

CHECK 1 京大生はなんと無料！

なんと京都大学総合博物館（以下、京大博物館）は、京大生なら学生証を見せればタダで入れるのです！ 京大に博物館があることを知っている人はたくさんいると思いますが、意外にこのことを知らず、行ったことがない人が多いのです。せっかくタダで入れるのですから、一度ぐらいは行ってみたいはどうでしょうか？

ちなみに開館時間は9:30~16:30（入館は16:00まで）で、休館日は月曜日と火曜日です。京大生以外の観覧料は、一般400円、大学生・高校生300円、小中学生200円です。詳しくはホームページ（<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>）をご覧ください。

CHECK 2 京大博物館とは？

京大博物館は、日本でも最大規模の大学博物館です。もともと文学部の博物館があったのですが、2001年に新館が完成し総合博物館となり、今では様々な分野の教員が博物館に在籍しています。

京大博物館の目的は、京大の研究成果を外部に紹介するだけではありません。文化史や自然史で重要な学術標本の保全・管理、そしてその活用に重点が置かれています。

常設展では、フィールドワークを中心とした自然史系の展示と文化史系の資料が展示されています。また、博物館の地下には膨大な学術標本を収める収蔵庫があり、研究に使われています。



▲ジャングルの木や葉、つり橋をリアルに再現。ちなみにつり橋は許可がないと渡れません。



◀枝？
いえ、ナナフシです。

▼地下の収蔵室。戦前、旧三高時代の資料や、今ではもう見られない生物が保管されている。



CHECK 3 博物館の目玉、企画展

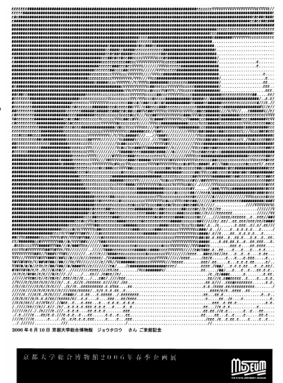
京大博物館では常設展のほかに期間限定の企画展というものがあり、京大のいろいろな部局の最先端の研究成果や、今までの貴重な学術資料などを展示しています。

今回の企画展は、「コンピュータに感覚を」と、文学部百周年記念企画「百年が集めた千年」の2つです。

「コンピュータに感覚を」は、音声を認識できるロボットと会話をしたり、コンピュータで感性を表現するなど、最先端の情報処理システムを使った体験型の展示になっています。

「百年が集めた千年」は文字通りこの百年で京大文学部が集めた資料を展示しています。こちらのほうは写真で紹介できないほどの貴重な資料があり、中には室町時代の資料もあります。

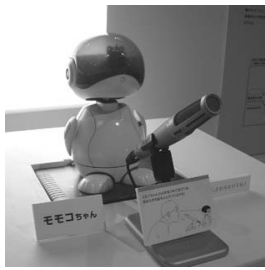
ちなみに「百年が集めた千年」は7月9日、「コンピュータに感覚を」は8月27日までです。



▶「コンピュータに感覚を」来館記念として、カメラで自分の顔写真をアスキーアートにした物がもらえる。

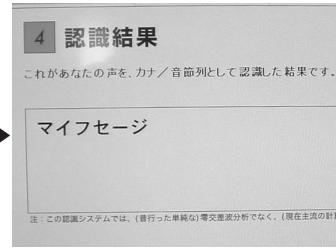
はみだし
すてーじ

はみだしすてーじを見るたびに感じていたことなのですが、はみだしすてーじにこのような長い投稿をするとどうなるのでしょうか？ やはり、私の思惑通り、はみだしすてーじからはみだすという前代未聞の事態が起こるのでしょうか？ とて……（工・3 朝倉）
⇒こうなります。（何とか入れることもできなくはないです；編）



◀言葉を理解し会話ができるロボット、モモコちゃん。ちなみに年齢は3才。京阪奈から来たそうです。

▶音声を認識し文字として表示するシステム。ここで「らいふすてーじ」と言ってみると……



◀残念。発音をしつかりしましょう。

CHECK 4 チンパンジーと対戦!?

博物館にはチンパンジーのアイちゃん（のデータ）と知能測定実験装置を使って対戦できるゲームがあります。

アイちゃんといえば天才チンパンジーということで有名ですが、それでもたかがチンパンジーだと油断してかかると苦戦するでしょう。はっきり言ってかなりの強さです。館長も「絶対負けませう」とおっしゃっていました。



▶熱心にゲームをする編集部員。ちなみに戦績は1勝1敗。



▶ゲーム以外にもチンパンジーの生態を知ることができる。

京都大学総合博物館 館長 なか ぼう てつじ 中坊 徹次 先生 インタビュー

——京都大学における博物館の目的を教えてください。

まず2つあります。1つは、京都大学が100年間にわたって学術活動で集めてきた学術資料の一括管理をして、再び学術活動に利用していただくことです。これは学内の研究者だけでなく、学外の研究者にもです。

もう1つは、京都大学の学術活動、教育研究活動を、一般社会の人々に広く知っていただくための一つのインターフェースの役割を担うことです。

——博物館として京大生に伝えたいことはありますか？

博物館の活動を、京大生のすべての人がご存知かといったらそうではないですよ。まず来ていただくことです。学生証を見せれば、京大生であれば無料です。まず見て、一体ここは何をしているところなのかを知っていただきたい。

あと、みなさんが勉強していることに関する資料の実物があるということを知っていただきたいですね。そういうものは教科書でしか知らないし、実物は見えないんですよ。本物を見ると違いや、その役割などがわかってくるんです。

まず見て、知っていただかないと話になりませんので、その上で、博物館にこんなことしてほしいとか、こういう活動はどうかということをお願いできればうれしいですね。

ただ、表に出している展示だけでなく、標本の収蔵室がありまして、そこにあるのは現役の学術資料だということも知ってほしい。博物館の目的としては学術活動をみなさんに知ってもらうという面と、学術標本の維持管理、そして活用という面もありますので、そのどちらが欠けても博物館ではないですね。そのことをみなさんに知っていただきたい。



——最後に館長から京大生にむけてメッセージをお願いします。

もう少し勉強してください。知識を得る喜びを知ってほしい。せっかく時間があるのですから、知識を増やしてほしい。そのことに博物館を使ってもいいし、本を読むのもいい。いろいろやって知的なレベルアップを図ってほしい。みなさんはもともとキャパシティはすごくあると思うんです。

京都大学の図書や学術標本の収集はすごいんですよ。図書館や各部局はアレっと思うようなすごい雑誌を持っているし、世界で数点しかないものもあるんですよ。京都大学というのは知的財産の宝庫なんです。せっかく入ってきたのだから、それを活用しない手はないんじゃないですかね。

——ありがとうございました。

はみだし
すてーじ

星が8つのドラゴンボールを手に入れました。

⇒「八星球!? なんだそれは!?!」「いちいち説明するのめんどうだ。てめえで勝手に想像しろ」（やっぱリベジータっていいよね; 編）

(栗・1 山ぶどう)